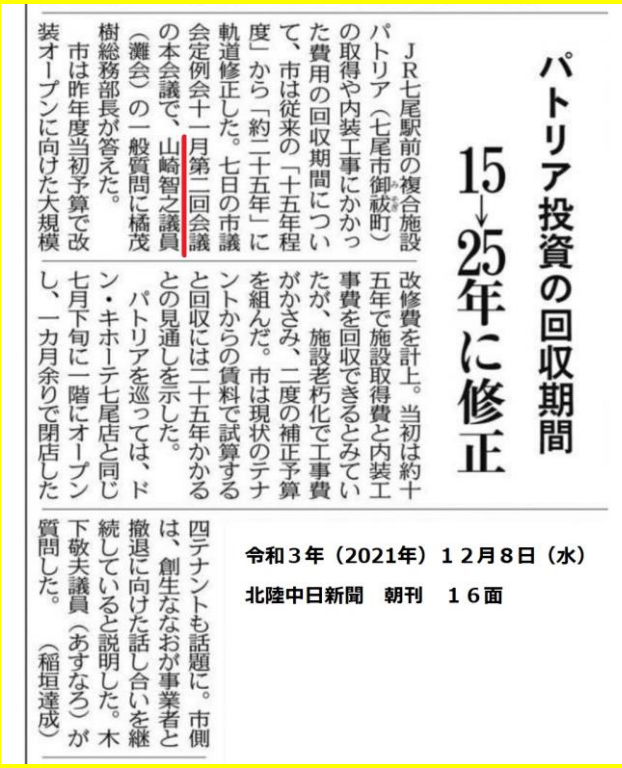
駅前再生・ワクチン接種へ「市政の責任」を。

3. 適切な公費回収へ議会チェック

運営会社の破綻後、パトリア再生へ新しい運営会社の下で取り組んでいるが、議会答弁がこの１年で大きく変遷していることから現状について問いただす。

パトリアに投資した公費を行政の責任で適切に回収すること求めるとともに、不適切なテナント仲介者の問題も議会で指摘し、駅前・市街地再生には地域・町会や商店街の協力が何より重要と訴える。



パトリア投資の回収期間
15→25年に修正

JR七尾駅前の複合施設パトリア（七尾市御祓町）の取得や内装工事にかかった費用の回収期間について、市は従来の「十五年程度」から「約二十五年」に軌道修正した。七日の市議会定例会十一月第二回会議の本会議で、山崎智之議員（灘会）の一般質問に橘茂樹総務部長が答えた。

市は昨年度当初予算で改装オープンに向けた大規模改修費を計上。当初は約十五年で施設取得費と内装工事費を回収できるとみていたが、施設老朽化で工事費がかさみ、二度の補正予算を組んだ。市は現状のテナントからの賃料で試算すると回収には二十五年かかるとの見通しを示した。

パトリアを巡っては、ドン・キホーテ七尾店と同じ七月下旬に一階にオープンし、一カ月余りで閉店した四テナントも話題に。市側は、創生ななおが事業者と撤退に向けた話し合いを継続していると説明した。木下敬夫議員（あすなろ）が質問した。（稲垣達成）

令和３年（2021年）１２月８日（水）
北陸中日新聞　朝刊　１６面

七尾コロサ 安全と降雪祈る

屋根付き動く歩道 乗り心地確認

七尾市多根町の七尾コロサスキー場で十九日、安全祈願祭があり、市スキー協会や地元住民ら約五十人が今シーズン中の無事故と十分な降雪を祈った。同日朝の積雪は一五㌢。積雪が五〇㌢ほどあれば二十五日午前九時オープン予定。

地元の多根伊那那神社の大森重孝宮司が祝詞を上げ、ゲレンデをおはらい。出席者が玉串をささげた。

茶谷義隆市長は昨季に新設した「動く歩道（約百ぴのエスカレーター）」を見つつ「コロナで外に出られないこどもたちが歩道を使いゲレンデで楽しむ様子を見て、この地でこういう姿があることを実感した。永遠に続くよう支援を」とあいさつ。管理する公園コロサ管理組合の仙田忠理事長は今夏からのゲレンデ整備を振り返り「地元の皆さんのボランティアの働きに頭が下がる。今後もお願いすることが多いでしょうが、ご配慮を」と述べた。

スキー場は二〇一八年度、一九年度は雪不足で営業できなかったが、大雪もあった昨季は十二月中から営業を始め、歩道新設もあり、そり遊びやスキーなどを基本から学ぶ子どもなどの人気を集めた。ただ、大雪で歩道を安全に稼働できない事態も生じ、本年度は歩道を覆う屋根を付け積雪に関係なく安全に使用できるようにした。十九日は祈願祭出席者が歩道の乗り心地を確かめた。

組合の自根間之事務局長は「歩道のある斜面は初心者など基礎を身に付けたい人が十分楽しんで練習できる。屋根付きでさらに快適になる」と話した。スキー場はペアリフトもあり、一日券二千円（中学生以下千円）など、歩道利用は一日券千円（同五百円）。問組合〇七六七（五二）〇〇二二（室木泰彦）

屋根付きの動く歩道の乗り心地を確かめる出席者たち

令和３年（2021年）
１２月２０日（月）
北陸中日新聞　朝刊　15面

4. ３回目ワクチン接種へ情報提供を

年明けから想定されていた、オミクロン株の感染拡大、コロナ第６波の到来を踏まえ、市内における３回目のワクチン接種実施へ、行政から市民へ適切な情報提供を求める。

ワクチン接種期間を８か月から７か月へ短縮する「前倒し実施」を行う必要性や、国から自治体へワクチン供給体制の見直しに伴い、１回目・２回目と異なるワクチンを接種する「混合接種」の実施へ、行政から市民に対して安全性に関する情報を要請。

３回目接種は市民の理解が何より重要で。

発行者：山崎智之後援会「智政会」七尾市矢田新町イ部６番地６７　【後援会討議資料】